

平成 18 年 4 月 3 日

各 位

会 社 名 株式会社 富士バイオメディックス
代表者名 代表取締役社長 鈴木 晃
(コード番号: 3379 名証セントレックス)
問合せ先 取締役社長室長 笠原 章弘
(TEL. 048-543-3411)

株式会社ベイ・バイオ・イメージング（当社 64.25%出資：横浜市立大学発のベンチャー企業）の設立に関するお知らせ

当社は、公立大学法人横浜市立大学と共同で、同大学発の大型ベンチャー企業である株式会社ベイ・バイオ・イメージング（以下 B B I という）を設立しましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 事業の内容及び設立の理由

当社は、公立大学法人横浜市立大学及び株式会社加速器分析研究所（当社資本業務提携先、以下 I A A という）並びに S B I ホールディングス株式会社と共同で、国内製薬企業が抱える創薬における課題解決と国際競争力の向上を目的として、薬物動態解析（注 1）と分子イメージング（注 2）による国内初の画期的な臨床試験受託サービスを提供する B B I（横浜市立大学発ベンチャー企業）を設立しました。

B B I の技術は、横浜市立大学の有する P E T、C T や I A A の有する AMS（Accelerator Mass Spectrometer：加速器質量分析計、注 3）等の高度な医療診断装置・分析装置と分子イメージング技術に関する研究成果やノウハウを用いることによってはじめて可能となるものであり、ヒトの臨床試験段階で開発中止になる可能性をもつ薬物（候補化合物）を、より早い段階で見極めることができます。

また、当社は、横浜市立大学に新たに寄附講座（「分子イメージング部門フェーズゼロ（注 4）“F B M”」）を開設し、人材育成に努めるとともに、動物用 P E T 等の新規設備の導入や製薬会社向けの顧客管理などの運営実務を支援します。

本事業は、医薬品の開発に飛躍的な進歩をもたらすものです。当社と横浜市立大学は、欧米では一部導入され効果をあげてきているこの手法につき、国内で初めて事業化を果たし、医薬品開発の進歩並びに国際競争力強化に貢献していく考えです。

(注1) 薬物動態解析

生体に投与された薬物（候補化合物）が、吸収されて体循環血液中に入り、作用部位に到達し薬効を発現して、生体内に分布し、肝臓などで分解（代謝）され、尿中に排泄されて、生体内から消失する過程の解析

(注2) 分子イメージング

生体に投与した候補化合物の生体内での変化を分子レベルで可視化することにより、動的、定量的にとらえることを可能とする技術

(注3) AMS（Accelerator Mass Spectrometer：加速器質量分析計）

候補化合物に関して、放射性同位体を利用し、従来の1000倍以上の感度で、高精度の血中濃度測定等を行うことができる機器

(注4) フェーズゼロ

非臨床試験と臨床試験の中間に位置づけられるもので、候補化合物の微量投与により、分子イメージング及び加速器質量分析による候補化合物（薬物）のスクリーニング（条件に合うものを選び出すこと）を可能にする試験段階

2. 株式会社ベイ・バイオ・イメージングの概要

(1) 名 称	株式会社ベイ・バイオ・イメージング
(2) 主な事業内容	薬物動態試験の受託、非臨床・臨床試験の受託及びシステム開発、動物用イメージング
(3) 設 立 年 月	平成18年4月3日
(4) 本 社 所 在 地	神奈川県横浜市金沢区福浦3-9
(5) 代 表 者	代表取締役社長 岡 卓志
(6) 資 本 の 額	4,000万円
(7) 従 業 員 数	9名

3. 今後の見通し

今期の業績に与える影響に関しましては、現状では軽微であると考えております。

以上